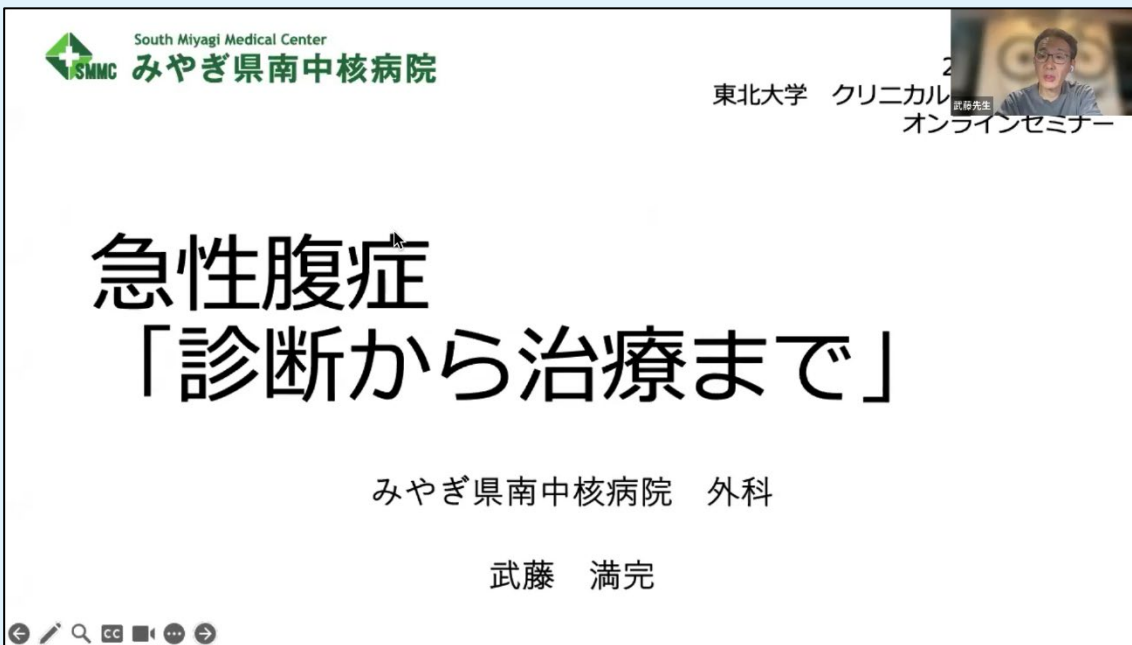


医療従事者のためのオンライン講座2025 第4回「急性腹症～診断から治療まで～」

宮城県内の医療従事者に向けた、医療従事者のためのオンライン講座2025年の第4回目は「急性腹症～診断から治療まで～」というテーマでみやぎ県南中核病院外科主任部長の武藤満完先生にご講演いただきました。



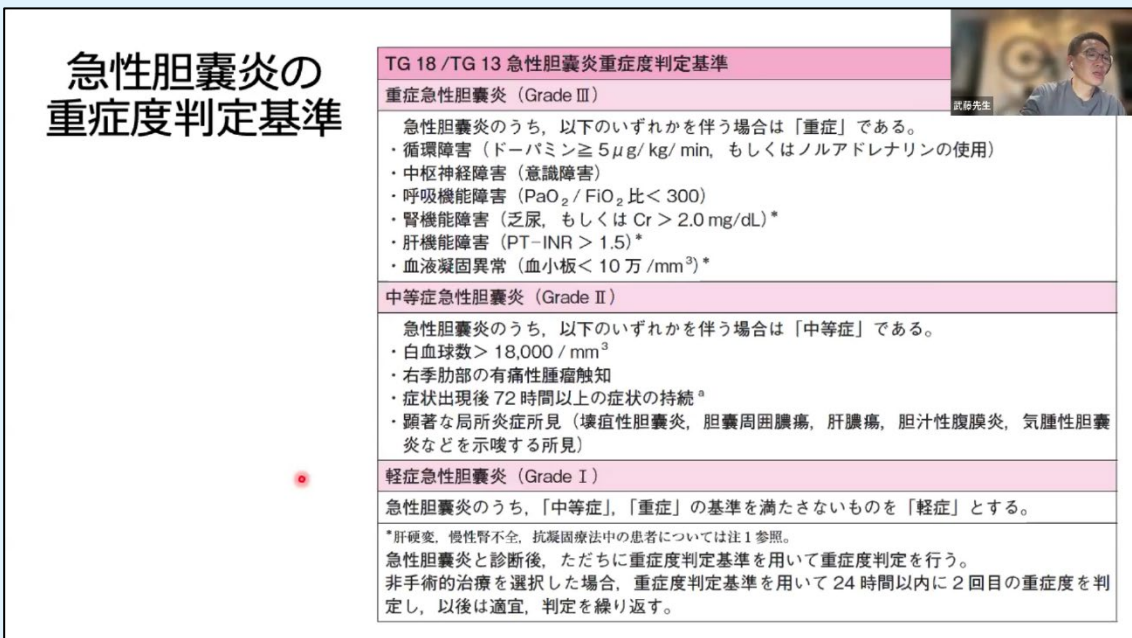
South Miyagi Medical Center
みやぎ県南中核病院

東北大学 クリニカル
オンラインセミナー

急性腹症 「診断から治療まで」

みやぎ県南中核病院 外科

武藤 満完



急性胆嚢炎の重症度判定基準

TG 18 / TG 13 急性胆嚢炎重症度判定基準
重症急性胆嚢炎 (Grade III) 急性胆嚢炎のうち、以下のいずれかを伴う場合は「重症」である。 ・循環障害 (ドーパミン $\geq 5 \mu\text{g}/\text{kg}/\text{min}$, もしくはノルアドレナリンの使用) ・中枢神経障害 (意識障害) ・呼吸機能障害 ($\text{PaO}_2/\text{FiO}_2$ 比 < 300) ・腎機能障害 (乏尿, もしくは $\text{Cr} > 2.0 \text{mg}/\text{dL}$)* ・肝機能障害 ($\text{PT-INR} > 1.5$)* ・血液凝固異常 (血小板 $< 10 \text{万}/\text{mm}^3$)*
中等症急性胆嚢炎 (Grade II) 急性胆嚢炎のうち、以下のいずれかを伴う場合は「中等症」である。 ・白血球数 $> 18,000/\text{mm}^3$ ・右季肋部の有痛性腫瘍触知 ・症状出現後 72 時間以上の症状の持続 ^o ・顕著な局所炎症所見 (壊疽性胆嚢炎, 胆嚢周囲膿瘍, 肝膿瘍, 胆汁性腹膜炎, 気腫性胆嚢炎などを示唆する所見)
軽症急性胆嚢炎 (Grade I) 急性胆嚢炎のうち、「中等症」、「重症」の基準を満たさないものを「軽症」とする。

*肝硬変, 慢性腎不全, 抗凝固療法中の患者については注1参照。
急性胆嚢炎と診断後, ただちに重症度判定基準を用いて重症度判定を行う。
非手術的治療を選択した場合, 重症度判定基準を用いて 24 時間以内に 2 回目の重症度を判定し, 以後は適宜, 判定を繰り返す。